

二〇一五年 一月

「今月の言葉」と「今月の聖語」についての紹介

## 今月の言葉

遇あいがたくして 今あ遇うことを得えたり、  
聞きがたくして すでに聞くことを得たり。

きんごきんごうしんじょう

## 『教行信証』

盲もろ亀か浮か木ぼくという言葉があります。実はこれは釈尊あなんが弟子阿難あなんに向けて仰おつしやった次のような話にもとづいています。

「広大な海の底に目が見えない一匹の亀がいる。その亀は百年に一度水面に顔を出す。海には一本の丸太が浮いていて、それには小さな穴がある。丸太は風で東西南北に漂っている。阿難よ。この亀が浮かび上がった時、丸太の小さな穴から顔を出すことはあると思うか」「釈尊よ、そのようなことは考えられませんか」と、阿難は答えます。すると、釈尊は「ところが、阿難よ。私たちが人間に生まれ、仏教に出遇うことは、その亀が、丸太の穴から顔を出すことよりも、難しいことだ」とおっしゃったといわれています。

今月の言葉は親鸞聖人が示されたお言葉ですが、このたとえ話と同様に、めったに出遇えない仏法にめぐりあい、聞くことができたよろこびが込められていると思われれます。

今月十六日の報恩講ほうおんこう。盲亀浮木の仏法に耳を傾けてみましょう。

## 今月の聖語

足たることを知らない者は 富とんでいても貧しい

ゆいぎんごうしんじょう

## 『遺教経』

小学生の時、スーパーファミコンというゲーム機が発売されました。欲しくて仕方がなかったですが、お小遣いでは買えません。貯金の末に買った時、天にも昇る気持ちでした。ですが、しばらくすると他のゲームソフトが欲しくなってきました。学校の休み時間、友達から「新しいゲームソフトが出た」と聞き、また欲しくなる。が、一つ数千円ほどの値段は小学生には簡単に手が届かない。欲しいけど買えない。その繰り返しで、最初はゲーム機を買えただけで満足だったのに、いつの間にか不満だらけです。

欲しいものが手に入っても、また欲しいものが出てくる。お金やものだけではなく、地位も名誉も。あれもほしいこれもほしい、もっとほしい。「足ることを知らない」とはこのようなことです。いつまでも満たされないのですから、いくら経済的に富んでいても精神的には貧しいのです。それを釈尊は「富んでいても貧しい」と仰っています。

もちろんお正月のお年玉はうれしいですが、額の多少に関わらず思い出して下さい。「足ることを知る」豊かさもある、ということを。

宗教教育係